



## 平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年1月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社アドウェイズ

コード番号 2489 URL <http://www.adwavs.net/>

代表者 (役職名) 代表取締役

(氏名) 岡村 陽久

問合せ先責任者 (役職名) 管理担当上席執行役員

(氏名) 田中 庸一

TEL 03-5339-7122

四半期報告書提出予定日 平成25年2月6日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	15,582	15.5	257	△74.9	313	△70.0	274	△60.3
24年3月期第3四半期	13,490	14.4	1,025	58.0	1,044	61.4	692	112.5

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 337百万円 (△50.2%) 24年3月期第3四半期 677百万円 (103.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	3,559.75	3,496.29
24年3月期第3四半期	9,138.30	8,952.97

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第3四半期	8,241	4,689	56.7	64,907.84
24年3月期	7,544	4,923	65.3	61,570.76

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 4,670百万円 24年3月期 4,923百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	—	—	1,080.00	1,080.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は中長期的な企業価値の向上に努め、株主に対する利益還元を行うことを経営の重要な課題の一つと認識しており、財務体質の強化及び将来の事業展開に備えるための内部留保の充実を中心に据えながら、その業績並びに業績の見通しに応じた利益配分を努めることを基本方針としております。現時点での平成25年3月期の配当予想につきましては、経営環境の先行きが不透明であることから未定とさせていただきます。

### 3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,000	16.8	320	△75.8	370	△72.3	300	△61.8	3,953.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 有
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	79,970 株	24年3月期	79,970 株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	8,018 株	24年3月期	0 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	77,158 株	24年3月期3Q	75,728 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続は完了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については添付資料P. 5「1. 当四半期に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法)

当社は平成25年1月31日(木)に機関投資家及びアナリスト向けに説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明会資料は、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	5
4. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9
(5) セグメント情報等 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

平成24年6月末には世界でユーザーが24億人を超えた※1インターネットの普及や社会基盤化に伴い、インターネット関連ビジネスは、人々のコミュニケーションやイノベーションの在り方を変え、経済全体に波及効果を及ぼす、いわゆる「インターネット・エコノミー」として広がりを見せており、生産性向上や経済発展の牽引役としての期待が高まりつつあります。我が国においても平成22年に23兆円だったインターネット関連産業の経済規模が、平成28年には1.3倍の30兆円に拡大すると予測※2、平成23年度の我が国のインターネット普及率は79.1%（前年比0.9%増）※3となっており、インターネット普及率は約8割に拡大しています。一方、スマートフォンの利用拡大も目覚しく、平成24年3月末のスマートフォン契約数は2,522万件（前年比1,567万件増）となり、通常の携帯端末とスマートフォンを合わせた端末総契約数1億1,232万件に占めるスマートフォン契約比率は22.5%（前年比13.7%増）にまで拡大しています※4。

※1 IWS 平成24年6月データ

※2 BCG 平成24年3月発表

※3 総務省「平成23年通信利用動向調査」

※4 MM総研 平成24年3月発表

当第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日～平成24年12月31日）における我が国の経済は、ユーロ圏における財政不安の長期化と、それに伴う米国の景気停滞が懸念され、国内景気は復興需要等を背景として、緩やかな回復基調にあるものの、デフレの長期化や厳しい雇用環境が継続しており、先行きは予断を許さない状況が続いております。

当社グループが事業展開を行うインターネット広告・スマートフォンアプリ業界は、ソーシャルメディア市場の拡大やスマートフォンをはじめとするインターネット利用端末の多様化などを受け、インターネット広告市場は8,062億円（前年比4.1%増）とテレビ広告に次ぐ広告メディアへの拡大に加え※5、スマートフォンアプリ市場は平成23年には82.2億円の市場規模が、翌年には139.9億円（前年比70.2%増）と急拡大が見込まれており※6、今後も順調な拡大が予想されております。

※5 電通「2011年（平成23年）日本の広告費」

※6 矢野経済研究所 平成24年3月予測

こうした経営環境の下、当第3四半期連結累計期間における当社グループは主力のインターネット・モバイル広告事業に加えてスマートフォン関連事業に投資を行うとともに、大手プラットフォームおよび有力メディアと戦略的提携を行い、モバイルユーザーへのリーチを拡大するとともに、ゲームアプリのラインアップを拡充することによってスマートフォンユーザーに質の高いエンターテインメントを提供してまいりました。

広告事業においては、平成24年5月に稼働した大手ソーシャルゲームプラットフォームとの提携等により、モバイルの提携メディア数が拡大するとともに、当社独自で提供しているスマートフォンアプリ向け広告「AppDriver」が引き続き伸長し、スマートフォンユーザーへのリーチを拡大してまいりました。

アプリ・メディア事業においては、昨年リリースした「カイツクロニクル」や「小悪魔キャバ嬢らいふ」、「煙に巻いたらさようなら。」等の既存タイトルを効果的に運用することにより収益を継続させるとともに、新たに「魔女大戦クロニクル」等の新タイトルをリリース、ゲーム以外でも「使える顔文字一覧」等のツールアプリが累計100万ダウンロードを達成（平成24年12月時点）し、スマートフォンユーザーを獲得してまいりました。

海外においては、中国ではPC向けアフィリエイト広告「CHANet」での売上が拡大するとともに、平成24年4月に提供を開始したスマートフォンアプリ向け広告「AppDriver China」の取引が拡大しています。平成24年10月には韓国に子会社を設立し、海外10ヶ国に展開しています。

以上の結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間における売上高は前年同期より2,091,197千円増加し、15,582,009千円（前年同期比15.5%増）となりました。

売上総利益は、前年同期より49,813千円減少し、2,766,289千円（前年同期比1.8%減）となりました。

営業利益は、エンジニアや海外向け人材の採用等により経費が増加したため、前年同期より768,645千円減少し、257,179千円（前年同期比74.9%減）、経常利益は、前年同期より731,101千円減少し、313,196千円（前年同期比70.0%減）となりました。

四半期純利益は、前年同期より417,362千円減少し、274,663千円（前年同期比60.3%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

平成24年3月期第3四半期連結累計期間より、スマートフォン広告市場の急速な成長を背景に、デバイスに捉われず、インターネット上の広告について、総合的なサービスを提供する組織へ変更したため、報告セグメントを「インターネット広告事業」、「モバイル広告事業」、「コンテンツプロバイダ事業」及び「海外事業」から「広告事業」、「コンテンツプロバイダ事業」及び「海外事業」に変更しております。

また、平成25年3月期第1四半期連結累計期間より、前連結会計年度のセグメント区分において、「海外事業」に含めていた愛徳威軟件開発(上海)有限公司のスマートフォンアプリ事業が急拡大したことから「コンテンツプロバイダ事業」に含めると同時に、セグメントの名称を従来の「コンテンツプロバイダ事業」から「アプリ・メディア事業」に変更しております。その他に、従来の「コンテンツプロバイダ事業」に含めていた株式会社アドウェイズ・エンタテインメントは、平成25年3月期第1四半期連結累計期間に全株式を株式会社エムアップに譲渡したことにより、連結から除外したことに加え、株式会社サムライリンクの株式取得による子会社化により、連結の範囲に含めると同時にセグメントの区分を「アプリ・メディア事業」に含めております。

なお、前第3四半期連結累計期間については、当該企業再編に伴う組織変更を反映した場合の売上高及び利益の金額を記載しております。

#### ①広告事業

	平成24年3月期 第3四半期	平成25年3月期 第3四半期	増減	前年同期比(%)
売上高(千円)	11,304,583	13,292,296	1,987,712	17.6
(外部売上高)(千円)	11,230,891	13,271,908	2,041,016	18.2
(セグメント間売上高)(千円)	73,691	20,388	△53,303	△72.3
セグメント利益(千円)	1,254,332	1,155,689	△98,642	△7.9

広告事業は、スマートフォンアプリ向け広告「AppDriver」、携帯電話向けアフィリエイト広告「Smart-C」やPC向けアフィリエイト広告「JANet」を中心に、インターネット上で事業展開を行う企業に対して、インターネット広告を総合的に提供しております。

当第3四半期連結累計期間における広告事業は、平成24年5月に稼働した株式会社ディー・エヌ・エーが運営する「Mobage」へのサービス提供が本格化し、スマートフォンを含めたモバイルの提携メディア数が拡大するとともに、当社独自で提供しているスマートフォンアプリ向け広告「AppDriver」が順調に拡大したことにより売上高は増加したものの、人件費等の費用が増加したことにより、セグメント利益は減少しております。

この結果、広告事業の売上高は13,271,908千円(前年同期比18.2%増)、セグメント利益は1,155,689千円(前年同期比7.9%減)となりました。

#### ②アプリ・メディア事業

	平成24年3月期 第3四半期	平成25年3月期 第3四半期	増減	前年同期比(%)
売上高(千円)	1,538,462	1,106,637	△431,824	△28.1
(外部売上高)(千円)	1,435,380	1,066,891	△368,489	△25.7
(セグメント間売上高)(千円)	103,082	39,746	△63,335	△61.4
セグメント利益(千円)	436,511	19,230	△417,280	△95.6

アプリ・メディア事業は、主に連結子会社である愛徳威軟件開発(上海)有限公司と株式会社ラビオンソーシャルにおいてスマートフォンアプリの開発・運営、連結子会社である株式会社サムライリンクにおいてメディアの運営等を行っております。

当第3四半期連結累計期間におけるアプリ・メディア事業は、平成23年度前半にリリースした「カイツクロニクル」や「小悪魔キャバ嬢らいふ」、「煙に巻いたらさようなら。」等で、継続して収益を上げるとともに、「魔女大戦クロニクル」等の新タイトルをリリースしております。また、他社が開発した中国向けアプリを日本向けにカスタマイズして配信する事業を開始しました。一方、今後の開発体制を強化するためにエンジニアを多く採用しているため、セグメント利益は減少しております。

この結果、アプリ・メディア事業の売上高は1,066,891千円(前年同期比25.7%減)、セグメント利益は19,230千円(前年同期比95.6%減)となりました。

## ③海外事業

	平成24年3月期 第3四半期	平成25年3月期 第3四半期	増減	前年同期比(%)
売上高(千円)	817,002	1,252,274	435,272	53.3
(外部売上高)(千円)	817,002	1,238,051	421,049	51.5
(セグメント間売上高)(千円)	—	14,223	14,223	—
セグメント利益または損失(△) (千円)	42,117	△132,583	△174,701	—

海外事業は、中国・台湾・米国・韓国において、総合的なインターネットマーケティングサービスを行っております。中国において展開しているPC向けアフィリエイト広告サービス「CHANet」や、スマートフォンアプリ向け広告サービス「AppDriver China」の提供のほか、現地企業と在中国の外国企業向けにインターネットマーケティングの総合支援サービスを行っております。

当第3四半期連結累計期間における海外事業は、平成24年4月に提供を開始したスマートフォンアプリ向け広告「AppDriver China」の取引が引き続き拡大、また中国に進出する日系企業、外資企業、及び現地企業に対し、アフィリエイト広告「CHANet」を軸として純広告やサイト制作等の取引高が増加したため、前年同期比で売上高が増加いたしました。一方、海外向け人員を増強したことにより、営業費用は増加しているためセグメント利益は減少しております。

この結果、海外事業の売上高は1,238,051千円(前年同期比51.5%増)、セグメント損益は132,583千円の損失(前年同期は42,117千円の利益)となりました。

## ④その他

	平成24年3月期 第3四半期	平成25年3月期 第3四半期	増減	前年同期比(%)
売上高(千円)	7,536	10,642	3,105	41.2
(外部売上高)(千円)	7,536	5,158	△2,378	△31.6
(セグメント間売上高)(千円)	—	5,484	5,484	—
セグメント損失(千円)	△65,716	△100,810	△35,094	—

その他は、新規事業のインキュベーションや愛徳威軟件開発(上海)有限公司での受託開発等を行っております。

当第3四半期連結累計期間におけるその他は、売上高は5,158千円(前年同期比31.6%減)となり、また新規事業関連の経費が増加したため、セグメント損益は100,810千円の損失(前年同期は65,716千円の損失)となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

## 資産、負債及び純資産の状況

資産においては、流動資産が前連結会計年度末より574,187千円増加し7,132,633千円となりました。主な増加要因は現金及び預金が112,456千円減少しつつも、受取手形及び売掛金が647,663千円増加したことによるものであります。固定資産が前連結会計年度末より123,218千円増加し1,109,002千円となりました。主な増加要因は投資その他の資産のその他に含まれている投資有価証券が81,094千円増加したことによるものであります。

負債においては、流動負債は前連結会計年度末より930,221千円増加し3,516,804千円となりました。主な増加要因は、支払手形及び買掛金が855,051千円増加したことによるものであります。固定負債は前連結会計年度末より1,617千円増加し35,450千円となりました。主な増加要因は、その他に含まれる資産除去債務が1,617千円増加したことによるものであります。

純資産においては、前連結会計年度末より234,432千円減少し4,689,380千円となりました。主な減少要因は、利益剰余金が194,241千円増加しつつも、自己株式の取得により508,065千円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年10月31日付けで当社の平成25年3月期第2四半期決算短信において公表いたしました通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしました。

売上高は、国内のスマートフォン及びインターネット広告事業が好調に推移したことにより増加する見込みであります。

営業利益、経常利益及び当期純利益については、売上高の増加に伴い売上総利益が増加し、また費用等の抑制が図られたことから、増加する見込みとなっております。

以上の結果、売上高21,000百万円(前期比16.8%増)、営業利益320百万円(前期比75.8%減)、経常利益370百万円(前期比72.3%減)、当期純利益は300百万円(前期比61.8%減)となる見込みであります。

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間より、株式会社サムライリンク及びJS ADWAYS MEDIA INC.の株式を取得したことに伴い、連結の範囲に含めております。また、ADWAYS INTERACTIVE, INC.を新規設立したことに伴い、連結の範囲に含めております。一方で、株式会社アドウェイズ・エンタテインメントは株式の売却により、連結の範囲から除外しております。

第2四半期連結会計期間においては、株式会社アドウェイズ・ラボット及び株式会社muamua gamesを新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

当第3四半期連結会計期間においては、株式会社Adways Frontier及び株式会社ADWAYS KOREA INC.を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
(減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、当該変更による影響は軽微であります。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,800,330	3,687,874
受取手形及び売掛金	2,531,496	3,179,160
たな卸資産	2,225	2,297
その他	257,934	298,901
貸倒引当金	△33,541	△35,601
流動資産合計	6,558,445	7,132,633
固定資産		
有形固定資産	119,042	123,536
無形固定資産		
のれん	106,225	91,581
その他	62,574	45,815
無形固定資産合計	168,799	137,396
投資その他の資産		
その他	698,719	849,896
貸倒引当金	△778	△1,827
投資その他の資産合計	697,941	848,069
固定資産合計	985,784	1,109,002
資産合計	7,544,229	8,241,636
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,966,620	2,821,672
未払法人税等	192,235	78,401
ポイント引当金	4,486	—
その他	423,240	616,730
流動負債合計	2,586,583	3,516,804
固定負債		
その他	33,833	35,450
固定負債合計	33,833	35,450
負債合計	2,620,416	3,552,255
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,479,142	1,479,142
資本剰余金	1,664,201	1,664,201
利益剰余金	1,781,500	1,975,742
自己株式	—	△508,065
株主資本合計	4,924,844	4,611,020
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	30,306	86,625
為替換算調整勘定	△31,336	△27,396
その他の包括利益累計額合計	△1,030	59,228
新株予約権	—	1,121
少数株主持分	—	18,010
純資産合計	4,923,813	4,689,380
負債純資産合計	7,544,229	8,241,636



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	13,490,811	15,582,009
売上原価	10,674,708	12,815,720
売上総利益	2,816,102	2,766,289
販売費及び一般管理費	1,790,278	2,509,109
営業利益	1,025,824	257,179
営業外収益		
外国税還付金	8,500	58,294
その他	10,460	13,690
営業外収益合計	18,961	71,984
営業外費用		
投資有価証券評価損	—	4,001
開業費償却	—	8,918
その他	488	3,047
営業外費用合計	488	15,967
経常利益	1,044,297	313,196
特別利益		
投資有価証券売却益	3,547	216,221
関係会社株式売却益	—	35,540
特別利益合計	3,547	251,762
特別損失		
固定資産売却損	—	63
固定資産除却損	354	—
投資有価証券売却損	9,773	—
投資有価証券評価損	643	28,632
段階取得に係る差損	10,570	—
減損損失	—	28,593
特別損失合計	21,341	57,289
法人税、住民税及び事業税	327,507	191,614
法人税等調整額	6,971	38,634
法人税等合計	334,478	230,249
少数株主損益調整前四半期純利益	692,025	277,419
少数株主利益	—	2,756
四半期純利益	692,025	274,663

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	692,025	277,419
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,017	56,319
為替換算調整勘定	△20,612	3,940
その他の包括利益合計	△14,595	60,259
四半期包括利益	677,430	337,678
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	677,430	336,786
少数株主に係る四半期包括利益	—	892

## (3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社グループは、第3四半期連結会計期間において、平成24年7月31日及び平成24年11月1日開催取締役会の自己株式の取得決議に基づき、自己株式を取得いたしました。

この結果、第3四半期連結会計期間において、自己株式は4,498株、279,181千円増加し、当第3四半期連結会計期間の四半期連結貸借対照表における自己株式は8,018株、508,065千円となっております。

## (5) セグメント情報等

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

「II 当第3四半期連結累計期間 3. 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載のとおりであります。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 3
	広告事業	アプリ・ メディア 事業	海外事業	計				
売上高								
外部顧客に対する売上高	13,271,908	1,066,891	1,238,051	15,576,851	5,158	15,582,009	—	15,582,009
セグメント間の内部売上高又は振替高	20,388	39,746	14,223	74,358	5,484	79,843	△79,843	—
計	13,292,296	1,106,637	1,252,274	15,651,209	10,642	15,661,852	△79,843	15,582,009
セグメント利益又は損失(△)	1,155,689	19,230	△132,583	1,042,337	△100,810	941,526	△684,347	257,179

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、新規事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△684,347千円には、主にセグメント間取引消去△29,322千円、各報告セグメントに配分していない全社費用655,025千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

## (固定資産に係る重要な減損損失)

「アプリ・メディア事業」セグメントにおいて、のれんに係る減損損失を特別損失に28,593千円計上しております。当該のれんの減少額は、連結子会社株式の減損処理に伴って、のれんを一括償却したものであります。

## (のれんの金額の重要な変動)

「海外事業」セグメントにおいて、JS ADWAYS MEDIA INC.の子会社化に伴い、のれんが増加しております。当該のれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において78,851千円であります。

「アプリ・メディア事業」セグメントにおいて、株式会社アドウェイズ・エンタテインメントの連結除外に伴い、のれんが減少しております。当該のれんの減少額は、当第3四半期連結累計期間において44,126千円であります。

## (重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

## (減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、当該変更による影響は軽微であります。

## (報告セグメントの変更等)

第1四半期連結累計期間より、「コンテンツプロバイダ事業」から「アプリ・メディア事業」に変更しております。愛徳威軟件開発(上海)有限公司が開発するアプリは、事業戦略上、海外ユーザーを対象として開発したアプリであるため、従来「海外事業」のセグメントに区分しておりましたが、想定以上に日本国内でのスマートフォンアプリ事業が急成長したこと及び株式会社アドウェイズ・エンタテインメントを連結の範囲より除外したことに伴い、従来の報告セグメントである「広告事業」、「コンテンツプロバイダ事業」及び「海外事業」の区分から「広告事業」、「アプリ・メディア事業」及び「海外事業」の区分に変更しております。

なお、当該報告セグメントの変更を反映した前第3四半期連結累計期間の報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報は、以下のとおりです。

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 3
	広告事業	アプリ・ メディア 事業	海外事業	計				
売上高								
外部顧客に対する売上高	11,230,891	1,435,380	817,002	13,483,274	7,536	13,490,811	—	13,490,811
セグメント間の内部売上高又は振替高	73,691	103,082	—	176,774	—	176,774	△176,774	—
計	11,304,583	1,538,462	817,002	13,660,048	7,536	13,667,585	△176,774	13,490,811
セグメント利益又は損失(△)	1,254,332	436,511	42,117	1,732,962	△65,716	1,667,246	△641,421	1,025,824

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、新規事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△641,421千円には、主にセグメント間取引消去△18,710千円、のれんの償却額21,997千円、各報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用600,713千円を含んでおります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。